

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)南区保健福祉センター 南区 白根1372番地 第二種住居地域 集会所, 2012年11月 予定 3,816.58 m <sup>2</sup> 1,370.61 m <sup>2</sup> 3,186.97 m <sup>2</sup> 地上 3F RC造 実施設計段階評価 2011年3月15日	
---	--	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{61}{40} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目名	コード	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	4.0		バリアフリー	Q2.1.1.3	5.0
			維持管理	Q2.1.3	4.0
			更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.6		耐震・免震	Q2.2.1	3.8
			信頼性	Q2.2.4	3.4
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

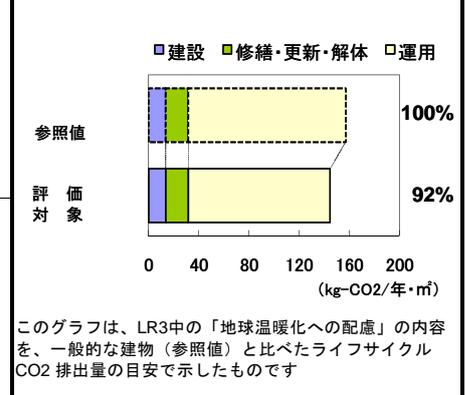
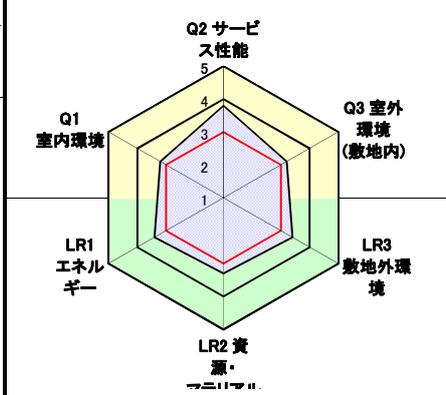
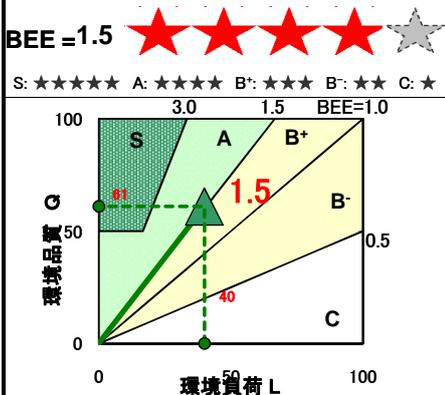
- ・建物の重要度係数を1.25として耐震性を高め、耐震壁を無くすと共に、OAフローア-・可動間仕切を採用し、将来の内装変更を容易なものとした。
- ・内外の床の段差を5mm程度とするなど、ユニバーサルデザインに十分、配慮した。
- ・地熱利用設備とトップライトを採用し、自然エネルギーを積極的に利用した。
- ・植栽計画については、この地域で、植栽実績のあるものを選定し、視線を遮らないように留意した。

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

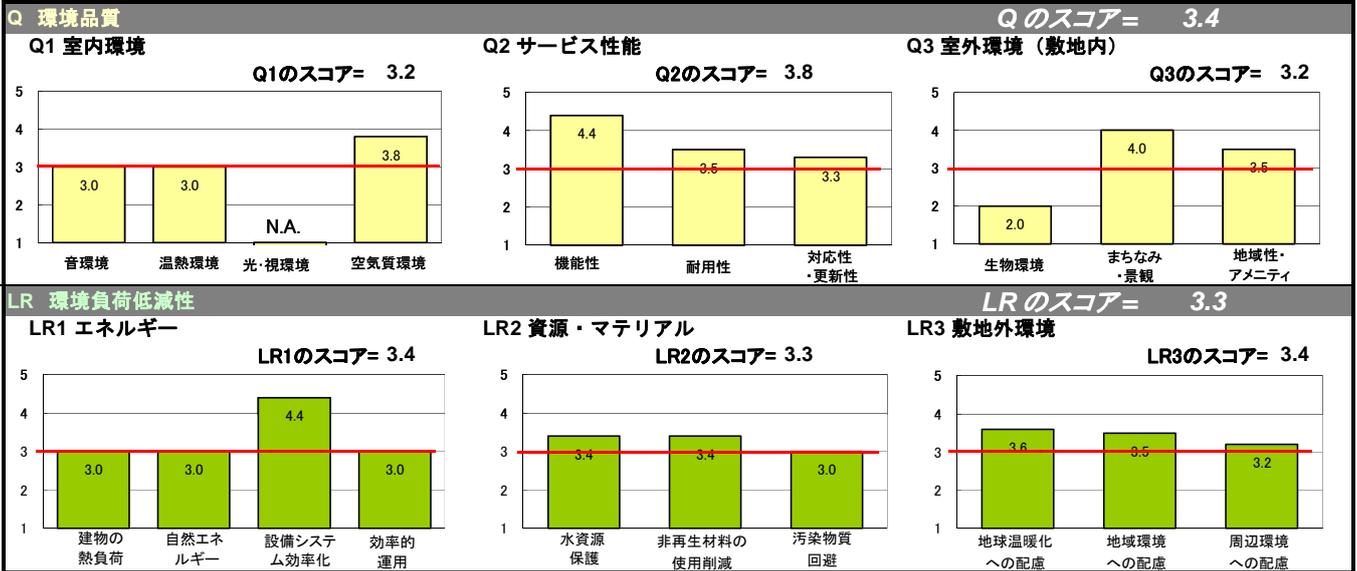
## 評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)** **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** **2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**



**2-4 中項目の評価(バーチャート)**



**2-5 設計上の配慮事項**

<b>総合</b> 建物の長寿命化を図るため、特に、躯体の劣化対策・外皮性能・耐震性・スケルトンインフィルに重点を置き、構造的信頼性を確保すると共に、熱負荷の少ない、将来の間仕切変更に対応できる設計とした。また、その用途上から、バリアフリー化には十分配慮し、内外共5mm程度の床の段差や手摺・視覚障害者用床材等を設置した。	<b>その他</b> 古き良き時代の良好な街並みを目指し、外壁の低層部分をタイル張りとし、なまこ壁に見立てた。
<b>Q1 室内環境</b> 居室の窓は、外皮性能の向上の為、LOW-Eガラスとフロートガラスのペアガラスを基本とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 重要度係数を1.25とし、耐震性を高めた。
<b>LR1 エネルギー</b> 地熱利用設備・トップライトおよび、高効率機器を採用した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> スケルトン・インフィルとすると共に、OAフロアー・可動間仕切を採用し、将来の内装変更を容易なものとした。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 良好な街並みが形成されるよう、可能な範囲で、街路樹を計画した。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特に、西側空地は、近隣住民の憩いのスペースとなるよう、外構計画で舗装の仕上材や植栽計画を決定した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される